

～輝きの子育て～

子どもの底力を引き出す言葉 ②



【人に信頼されるために】

信頼関係を築くには次の3つを意識しましょう。人間には承認欲求があるので

- 1 ダメな点を指摘している印象を与えない。
- 2 相手の良い点を認めて、口に出して承認する。
- 3 忍耐強く、優しく接する。厳しくするのは、よほどの信頼関係を築けた後。

【相手の能力を高めるために】

あなたが相手（お子さん）に関して抱いている心配や不安、懸念を相手にぶつけると、相手は悪くなります（＝能力が下がります。）相手の「自分には能力がある」という感覚を損なわないことです。

【良い指導者になる為に】

よく褒める指導者が、良い指導者です。指導の際は、「褒める：改善点をつたえる」＝「8：2」を意識しましょう。親子関係でも同様です。良い親は「褒める：改善点を伝える」＝「8：2」です。

【人を動かす為に】

相手を褒めたり、励ましたりしても、心からそう思っていないと、表情やトーン、身ぶり手ぶりの様子から、相手には効果がありません。「発言内容」と「表情やしぐさ」が一致していることを“**congleru-enshi**”と言います。相手を心から受け入れよう、理解しようとする気持ちがないと、congleru-enshiが起こらず、言葉は効果を発揮しません。

【やってはいけない指導法】

思うように相手が動かないことでイライラしたときに、多くの人がとる方法が「**フィアアピール**」です。これは相手に「**F e e r**=恐怖」を与えて動かそうとする手法です。相手は恐怖心のあまり、目的をよく理解しないままに、その場しのぎの非合理的な行動を取りがちになるので、しばしば最悪の結果を招きます。

【やってはいけない指導法】

「**フィアアピール**」で子どもの中に形成された思いは、一度固まると改善が難しくなります。軌道修正するには、後から強い介入が必要となり、大きな痛みを伴います。

【やってはいけない指導法】

子どもも大人も叱ったからと言って動く時代ではありません。心の中で強く反発してくるだけで、行動は改善などしません。

